



本郷文化フォーラム
ワーカーズスクール

2023年度後期講座 11月4日(土)～3月30日(土)

平日 PM6:45～9:00

土曜 PM1:00～4:00

- 11月4日(土) ロシア十月社会主義革命106周年記念集会
内容＝『連環画 花岡ものがたり』上映と朗読
- 11月11日(土) 尹錫悦退陣!を掲げる民主労総(映像と報告)
——韓国の11・11全国労働者大会と民衆総決起に連帯!
日本の労働者・労働組合は何をつかみ取るべきか
講師＝土松克典(韓国労働運動研究)
- 11月15日(水) クライスト作
『ミハエル・コールハースの運命』(岩波文庫)
講師＝立野正裕(元明治大学教員)
- 12月9日(土) オリジン労働者50数年の闘いから
——わたしが後輩に伝えたい総括の視点
講師＝二瓶久勝(元オリジン労働組合委員長・元国鉄闘争共闘会議議長)
- 12月13日(水) エドガー・アラン・ポー作
『メエルシュトレエムに吞まれて』(『ボオ小説全集3』(創元推理文庫)に収録)
講師＝立野正裕(元明治大学教員)
- 12月16日(土) 『オサヒト覚え書き関東大震災篇』(一葉社)
を刊行して——関東大震災時朝鮮人虐殺100年と現在
講師＝石川逸子(詩人)
- 12月23日(土) 沖縄戦の記憶に向き合う作家の想像力
講師＝越川芳明(明治大学名誉教授/アメリカ文学者)



HOWSで学ぼう

抵抗と変革を志すひとびとへ

●戦争への道、朝中敵視・差別扇動に反対しましょう!

今年8月24日、東京電力は国内外の強い反対の声を無視して、福島第一原発の放射能汚染水の海洋投棄を強行しました。岸田政権・東電は、これを「科学的根拠に基づく」ものと強弁し、安全性と正当性をふれまわっています。中国政府からの「溶け落ちた炉心に直接接触した汚染水には、有効な処理技術のない六〇余種の放射性核種が含まれている」という批判にはまともに答えず、これを「科学的根拠に基づかない発信」として中国敵視・蔑視政策の強化に悪用しています。マスコミも中国からの抗議電話を「嫌がらせ電話」と決めつけ、中国国内の日本施設への「投石事件」をことさら大きく取り上げ、連日中国への敵愾心をあおる報道を繰り返しています。まるで海洋投棄に抗議する中国が「加害者」で、海洋投棄を強行する日本が「被害者」であるかのような倒錯した演出がなされています。本年9月1日は、1923年の関東大震災から100年を迎えました。日本政府が戒厳令をしいたなかで、軍隊・警察と自警団に結集した日本人住民は、6000人を超える朝鮮人と800人近い中国人、また日本人の社会主義者・無政府主義者・労働組合活動家を虐殺しました。当時、日本政府は「震災を利用し朝鮮人が各地に放火」(「内務省警保局長」名の電文)などのデマを拡散したにもかかわらず、現在も政府・松野官房長官は「政府内で事実関係を確認できる記録が見当たらない」と事件の存在すら認めようとしていません。事件の根底には、流言飛語にあおられた群衆心理だけでなく、日本帝国主義が植えつけた被抑圧民族に対する差別意識や排外主義があったことは見逃せません。100年前のこの事件は、いまを生きるわたしたち日本人に、差別意識や排外主義を本当に克服できているのか、と鋭く、重い問いを投げかけています。いまこそ日本の朝鮮植民地支配責任を明確にするときです。

現在、岸田政権は5年で43兆円の軍事費を決定し、しゃにむに大軍拡を推進しています。そのために中国による「台湾有事」、



HOWS 2023後期プレ講座。10月7日(土)、「科学的に考えることの大切さ——原発・環境問題」というテーマで小出裕章さん(元京都大学原子炉実験所助教)が講演した。

そして朝鮮の米国による経済制裁・核攻撃に対抗するロケット打ち上げや核兵器開発をとりあげ、これを日本に対する脅威と描き出し、「日本の危機」をさかんに喧伝しています。いま、わたしたちには、日米韓の軍事同盟強化に反対し、朝鮮・中国、東アジアの労働者人民と連帯して、差別と戦争のない世界をつくりだす行動が求められています。

●ひらかれた共学のひろばHOWSに参加を!

今期のHOWSは、労働者の闘いの武器をとしてのストライキの意義、その思想と経験を検証し、さらに国境を越えた労働者の連帯を強化するために韓国の先進的な労働運動の実践に学びます。また、日本全土の軍事基地強化が進むなかで現状を正確に把握し、そのうえで沖縄の粘り強い反基地闘争に学び、われわれが「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうに」立ち上がる基礎を再確認します。さらにわたしたちの真の敵は誰かを明確にするために、朝鮮民主主義人民共和国や中国、キューバなど世界の反帝闘争の最新動向を把握する講座を用意しています。さらに、文化・芸術運動の分野の講座も数多く企画しました。

2000年に開校したHOWSは、さまざまなテーマをつうじて、わたしたちがいかに変革の担い手になりえるのかを追求してきました。講座に参加する全員で、この社会を根底から変革する思想と文化の創造、その方法をも探求する場の創造をめざしています。「講師＝教える人」、「受講生＝教えられる人」ではなく、ともに討論してゆく場です。1回の講座で問題がすべて解決でき、解答が得られるわけではありません。また毎回の講座を通じて、新たな疑問や課題が見つかることもあります。問題を多角的、継続的に考えることができるのも、HOWS講座の魅力です。

みなさん! HOWS講座に参加して、この社会を複合的に観る視点、そして変革のころざしをともに培いましょう!